

## ハトラ彫刻とアッタール染織品における ヘレニズム意匠について

藤井秀夫・坂本和子

アッタール洞窟（バグダード南西約 130 km, バハール・ミリー湖畔に所在）から出土した染織品の断片資料約4000点余は、デザイン構成、織技術上、東地中海沿岸地方のドゥラ・エウロポス、パルマイラー、レター洞窟出土等のそれ等と類似するものの、際立った特性がある。

文様の多くは綴織技法で表現されていて、その文様帯の構成は花樹文帯、葡萄文帯、樹本文帯で幅が広く、文様自体は比較的直線的である。また薄地の大布にデザインされたH文、Γ文も見出された。前者は、ハトラ出土の人物像のチュニックに、後者は袈裟風の巻衣等にも見られ、それらの幅広の文様帯はアッタール出土のデザインと共通する。これは同様にヘレニスティック神殿の architrave や frieze の意匠にも観察される。

また異色ともいえる資料はヘレニスティックなポートレイトを綴織で表現したエムブレム10点の2種類（織技法、デザイン構成に基づく）が薄地の大布に縫いつけられていた。人物の表情などが流し織技法などを使用して、豊かに表現されている。胸像は、ダイオニソスが女性の姿で表象されたもの、または金色の冠

を頭上に載せたり、宝石を散りばめた飾り帽子を被っている形象などで織り出されていて、前者のグループでは胸像の上下方向と経糸方向は一致し（たて織）、縁飾りは二重で、外側の縁飾りの上下には胸壁文（parapet motif）、左右には鋸歯文（indented geometric motif）が綴織で織られ、後者の場合では、胸像の縦方向は緯糸方向と一致し（よこ織）、波頭文（wavy motif）がエムブレムの四辺を縁取りしている。ハトラから出土した多くの人物像は正面描写であるが、ハトラの Grand Temple の small southern Iwan のフリーズに刻まれた楽士達の多くの胸像は 3/4 frontal attitude を示している。この事はアッタール出土の胸像が斜め描写である事と、基本的に通じ合う。

筆者等は、上記の点に注目し、1994年4月、モスール大学で開かれたシンポジウム、‘The Archaeological Heritage Relating to Hatra Site’ で述べた ‘The Close Relationship Between Hatra Sculpture Designs and At-Tar Textile Designs’ の発表内容を詳しく本会で説明した〔シンポジウムでの Text は本巻中73～76頁に掲載。また、人物文の詳細については本巻中77～93頁、Pls. 1～10 に掲載〕。